

《株式会社エフエム東京 第401回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成 25 年9月3日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数 6 名(社外 6 名 社内 0 名)

◇出席委員(5 名)

横 森 美 奈 子 委員長	渡 辺 貞 夫 委員
内 館 牧 子 委員	西 田 善 太 委員
秋 元 康 委員	

◇欠席委員(1 名)

香 山 リ カ 委員

◇社側出席者(11 名)

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
唐 島 専務取締役
石 井 常務取締役
平 常務取締役 営業局長
藤 取締役 マルチメディア放送事業本部長
山 科 常勤監査役
村 上 執行役員 編成制作局長
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局 編成制作部長
松任谷 編成制作局 番組プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(0 名)

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約 35 分)

倉本聰 ラジオドラマシリーズ～「山霧の深い晩」
8月14日(水) 20:00～21:40 放送

＜議事内容＞

議題1:最近の活動について

◎2013年6月度 聴取率調査結果について

2013年6月度の聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました。(調査対象期間:6月10日～16日)

今回は、全日週平均(6:00-24:00)の【12-59才】で上昇したほか、【M1】、【20代男女】、【10代男女】では在京社単独首位を獲得。さらに、【12-59才リーチ】においても単独首位を獲得し、全体的に前回スコアを上回りました。

特に【20代男性】、【M1】では4月改編でスタートした新ワイド番組「アポロン」、 「Skyrocket Company」等で聴取率が上昇しました。エリア別でも調査対象各地区で数字の伸びが確認されております。これは聴取者の耳目を集める企画開発、4月編成で課題とした音楽とトークのバランスの精査、および東京タワー新アンテナによる聴取環境改善、東京メトロ全線での中吊り広告によるPR等の施策が、スコアを上昇させた要因であると推測します。今後もリスナーへの思いやりと温かみのある企画演出を徹底し、さらに成果を上げる所存です。

◎キッズジャンボリー2013 メインステージをプロデュース

8月12日(月)～14日(水)の3日間、東京国際フォーラムで開催された「丸の内キッズジャンボリー2013」において、メインステージで実施する親子向けオリジナルイベントをプロデュース致しました。今年の来場者は13万人を超え、会場はお盆休み中の親子連れで賑わいました。

ステージでは『尾木ママのマンマ・ミーア!』などのレギュラー番組公開収録や、絵本のよみきかせ、ストリートダンスやタップダンスのワークショップ、多彩なジャンルの音楽ライブなど、3日間で、合計17のエンターテインメントプログラムを実施しました。

当社では、次世代リスナーの創出、育成に向けて、母と子で楽しんでいただく番組「よ・み・き・か・せ」の編成、スペイン坂スタジオにおける親子DJ体験、TOKYO FM少年合唱団の活動などに取り組んでいますが、このキッズジャンボリーにおいても、多くの子供たち＝次世代リスナーに様々なエンタテインメントを提供しました。



◎安部礼司×週刊ダイヤモンド×「伝え方が9割」コラボレーション企画を実施

「NISSAN あ、安部礼司～BEYOND THE AVERAGE」(日曜 17:00～17:55)が、ビジネス誌「週刊ダイヤモンド」と、36 万部突破の話題の書籍「伝え方が9割」(佐々木圭一著)と連動した企画を実施しました。

8 月 18 日(日)放送の番組内で、「週間ダイヤモンド」副編集長と佐々木圭一氏がラジオドラマに登場(声は声優)し、翌 19 日(月)発売の同誌の特集記事では、安部礼司に登場するキャラクターたちによる「伝え方の技術」を実践する企画がカラー6 ページに渡り掲載され、サラリーマンの日常を描くラジオドラマが、実際のビジネスシーンでも役立つ HOW TO として読者にアピール、放送と雑誌・書籍とのコラボレーションを具体化しました。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○聴取率はよい傾向だ。男性層がこれまでに比べて上昇したのは、具体的にはどういふことか？

■4月改編時に番組コンセプトの精査を行ったことが影響していると思う。音楽を深く届ける、冗長なトークをなるべくそぎ落とし、心地よく聞ける放送を目指そうという積み重ねに、共感を得たことの表れだと思う。また、地下鉄の広告もスマホで聴けることを打ち出すなど、若者に響くものを狙った。

議題2: 番組試聴 (約 35 分)

【番組名】 倉本聰 ラジオドラマシリーズ～「山霧の深い晩」

【放送日時】 8月14日(水) 20:00～21:40 放送

【番組概要】

本日お聴きいただくのは、脚本家倉本聰氏が潤色・演出を手がけたホラー・ラジオドラマです。

原作は昭和を代表する劇作家、北条秀司の同名作品(昭和 24 年)。三角関係のもつれで自ら命を絶った松葉杖の女性の怨念を、音だけで表現します。

＜原作ストーリー＞

……若い新聞記者が休暇で泊まったホテルで心中事件が起こった。

男には妻があり三角関係のもつれが原因らしい。男には致命傷がなく、手当をするため病院に運ばれる。ところが死んだと思った女がなんと、その男の病室に……

聴き手のイマジネーションを膨らませるために、松葉杖の女がホテルの古い階段を降りてくるクライマックスシーンには、富良野演劇工場にわざわざ“階段”を作って収録するなど、音の奥行きとリアルな音像表現にこだわった演出を施しています。

ラジオドラマのメイキングシーンの映像のご紹介とともに、作品全編をお聴きいただきます。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○企画や試みは面白かったが、物語自体はよくわからなかった。ラジオドラマというより芝居が TOO MUCH で舞台中継のようだった。だが、すごく可能性を感じる企画だった。冒頭にメイキング映像があったが、演出をする倉本さんの姿よりも、耳に入ってくる言葉や音のエネルギーの方が強かった。ゆるいゲストークと音楽がラジオになってきてしまった時代に、倉本さんが TFM でラジオドラマをやるというのは、こんなに非効率だが素晴らしい企画で、ここに間違いなくラジオの未来があると確信している。これに続いてやりたい脚本家が手を挙げてきたら、すごい財産にもなる。新しいラジオの息吹を感じた。

○こういう企画を今やるということはすごいと思う。ぜひ続けてほしい。一生懸命聴いた

が、内容はよくわからなかった。改めて原作を読んだらわかったが、昭和 24 年の本なので、昔の本を発掘するのは良いが、選定が重要だ。

例えば都筑道夫さんや、長野まゆみさんなど映像では絶対に表現できない独特の匂いのある作家の作品は面白いのではないか。また、演出はもっと怖くできそう。目で見るとより耳で聞くほうが怖い、本を読むと本の方が怖い。ラジオだと芝居の上手い下手も表れてしまうので、その成長とともに、今後のシリーズに期待をしたい。

○音作りが問題だ。ドラマのシチュエーションの中での声があまりにも目の前で、違和感があった。場所の情景として、音の遠近感があって然るべきと感じた。企画としては面白いが、朗読でやった方がもっと怖いのではないか。もっと長い時間の中でやらせたら聞こえ方も違ったかもしれないが、次から次へと情景が変わるのでテンポが忙しかった。また、こういう話の中では、間で音楽が入ると、一息入ってしまい、緊迫感が薄れる。

○非常に楽しく聴いた。普通のラジオドラマよりは空間を感じられる細かな演出があったと感じた。昭和の原作だから、昭和の感じのままにやればいいのにと考えた。昭和初期、20 年代の黒沢明、横溝正史の感じは憧れがあるものだ。今の 20 代がこれを聴いてどう思うのかは調べてみるといいかもしれない。セリフの細かいところに違和感を覚えることはあったが、ラジオドラマはやっぱりホラーがいいなと思い、面白く聴いた。メイキング映像も、フォントの選び方も含めて効果的だった。

○元来ホラーが苦手なので身構えたが、紹介にあるほどこの作品は怖くなかったので拍子抜けした。登場人物の話し方が、殺人現場を見た者とは思えない声やひょうきんさを感じてしまい、ストーリーを知らずに聴くと、普通の生活ドラマのようなトーンに思った。原作の活字を追っている方が怖い。

今回のような御大との制作作業は、どこまで局側の意向を反映できるものなのか？

■原作に倉本氏が手を加えることから制作作業がスタートしたので、それについて口出しすることはできなかった。富良野での収録は倉本さんが指揮者、オーケストラが俳優陣なので、骨幹について気づいたことや意見を求められたときは正直にお伝えし、検討を重ねた。効果音(SE)の素材は我々スタッフが用意し、使う音については倉本さんと協議した。

○プロモーション用に嘘の新聞記事を作ってもよかったかもしれない。

■この作品の社内試聴会を、倉本氏にお越しいただき、局の若い制作スタッフとワークショップをやった。若いスタッフにとって刺激になる経験になったと思う。

<第 401 回放送番組審議会 議事録>

○怖くなかった原因は、編集しすぎて詰めすぎているからだ。ホラー映画にしても、意味があると勘違いさせるようなわからない「間」に、怖さがある。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送:番組「JOGLIS RUN GIRLS SUNDAY」
9月29日(日)5:45～7:30放送
- ② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、10月1日(火)に開催することを決めた。

以上